

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	一般レストラン (統括)	お客様の様子	・9月の3連休後、観光客、地元客共に減少していたが、10月は3連休辺りから地元客だけでなく、観光客、インバウンドが増え始め、街中が活気付いている。さらに、11月6日からのカニ漁解禁に合わせ、北陸の冬の幸を求める観光客やインバウンドが増えるとみている。また、そのまま年末の忘年会シーズンに突入するため、年末までは景気の良い状況が続くと考える。
	◎	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・イベントや学会の参加者、旅行会社のツアー客など団体予約の獲得が好調である。また、行楽目的のインバウンド個人客も多い。個人、団体を合わせた稼働率は前年比110%と好調である。
	○	商店街(代表者)	来客数の動き	・インバウンドは変わらず好調である。特に9月末より、国慶節に合わせて訪日した中国人観光客がとて多かった。その後も欧米からの客の来店が多くなっている。
	○	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・残暑が続き、秋物は正規価格の商材が売れず、長らく客単価が上がらなかったが、10月に入り気温が低下したことで、客の秋物に対する購買意欲が向上している。
	○	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・一時的な状況かもしれないが、一部の車種で新車の配車が促進され、売上が上向いている。
	○	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・10月に入り、全国大会などの大型イベントが県内で開催され、団体客を中心に平日、週末にかかわらず満室が続いている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・外国人を含め、観光客が多くなっている。そのためタクシー利用が増えている。
	○	通信会社(役員)	販売量の動き	・通信、放送サービス共に契約数が前年同期よりも上回っている。
	□	商店街(代表者)	来客数の動き	・暖かい日が多く、ある程度の人出がある。客の買い控え傾向は続いているが、季節に合わせた商品は売れている様子である。空き店舗への新規出店の動きが見られ、今後に期待したい。
	□	一般小売店[精肉](店長)	販売量の動き	・衆議院選挙の影響もあり、来客数、販売量共に減っているが、ゴルフや一般のギフトなどに関しては増えている。
	□	一般小売店[事務用品](店長)	お客様の様子	・商品価格の上昇により、客が購入を控えている様子が見える。
	□	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・インバウンド売上の失速や、今月は前年より日曜日が1日少ないというハンディキャップがあり、新型コロナウイルス感染症発生前の2018年の実績は超えるものの、能登半島地震のあった1月を除いて11か月連続で前年実績を超えていた売上記録はストップする見込みである。特に婦人服、紳士服の売上が厳しい状況である。
	□	スーパー(店長)	販売量の動き	・買上点数、客単価共に変化は少ない。
	□	スーパー(仕入担当)	販売量の動き	・値上げや相場高の影響で販売点数が減少しているが、客による安いときのまとめ買いや商品の単価上昇があいまって、売上は横ばいの状況が続いている。
	□	コンビニ(店舗管理)	単価の動き	・客単価は前年割れの状況が続いている。
	□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・天候不順に加え、客の節約志向も続いていることから、売上は好転しない。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・中古車フェアを開催したところ、多くの販売量があった。新車についてはフェアを実施しても来場者数が余り多くなく、購買意欲が高くない状況である。
	□	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・商品群によって差があるが、トータルでは一定の売上を確保している。

□	自動車備品販売店（役員）	販売量の動き	・ダイレクトメールで販売促進を行ったが、集客は予想を下回り、限定のお買い得商品の動きも悪い。スタッドレスタイヤ販売も例年以上の特典を付けたが、商談件数の割に販売数量は伸び悩んでいる。特に高額商品の購入に対して、客は慎重である。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・物価高の影響が大きく、低価格での訴求をしなければ商品が動かなくなっている。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・止まらない物価高により、し好品であるアルコール商材は二の次となり、後回しになっている。消費者の財布のひもは固い状態である。
□	観光型旅館（経理）	それ以外	・能登半島地震以降、現在休業中で再開までにかかなりの期間を要する見込みである。
□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・インバウンド需要はプラスだが、国内需要が弱い。仕入価格の上昇により商品の販売価格も値上げしているため、来客数が減少している。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・秋の観光需要とインバウンド需要で県内に人があふれてきているのは確かだが、景気が上向いているというわけではない。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問合せ内容に変化がない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約の状況を見る限り、低価格志向が強く、景気が上向きになる傾向はない。
□	パチンコ店（経理）	販売量の動き	・景気が良くなる目立った動きはない。
□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・来客数に変化はほとんどない。新規入会への問合せ、新規獲得の数が全く伸びていない。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新規の分譲地販売が進み、それに続いて住宅建築も進んでいる。今後は金利が上昇すると考える客が増えており、その前に家を建てようとする人がまだ出てきそうである。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・リフォームの受注は計画を上回るが、個人の新築住宅の受注が振るわず安定感に欠けている。
□	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・来場者数の動きに波があり景気動向がつかみにくいだが、相対的に3か月前と大きな差はないと実感している。
▲	商店街（代表者）	単価の動き	・ある程度の人出はあっても、客単価が下がっており、さほど売上につながらない。気候変動による温暖化で、衣料品は秋物の販売シーズンが完全になくなっている。食料品も値上げの影響からか、総菜類の売行きが振るわない。
▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・今月は来客数が非常に落ち込んでいる。
▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・気温が高く、秋物衣料やコートといった、本来この時期に稼げるはずのアイテムの動きが悪い。また、月末は選挙の影響で来客数の減少と買い控えにつながったと考える。物産展など集客力のある催事を実施したが、結果は売上が前年割れとなり、厳しい状況である。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・各種イベントへの参加や旅行など、外出需要が拡大している。一方、小売店での買物需要は低下し、来客数が減っている。また、高気温が続いている状況と、商品価格や生活コスト増加の影響か、客の購買行動が極めて慎重になっている。さらに、低価格志向と商材を複数購入する客の減少で、客単価が伸び悩んでいる。買上率も低下傾向にある。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・衣替えに向けた秋物商材は少しずつ動き出してはいるが、食料品、郵便料金の値上がりなどが重なり、消費に積極的な状況とはいえない。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・暖かい日が続き、冬物の売行きが悪い。
▲	家電量販店（本部）	来客数の動き	・前月の反動か、来客数が前年同月と比較して減っている。

	▲	その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	お客様の様子	・直近の暖冬傾向により重衣料が動かない。食品、電気料金等の値上げも消費にブレーキを掛けている。
	▲	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・2～3か月前と比べると、国内の団体客、個人客共に、前年同月より減少傾向にある。また、インバウンドもそこまで増加していない。
	▲	競輪場 (職員)	販売量の動き	・本年前半に比べて、売上が下落している。
	▲	美容室 (経営 者)	来客数の動き	・物価高の影響からか、低価格のカット専門店に客が流れ、来客数がここ数か月減少し続けている。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・能登復興の先行きが見えない上に、住宅ローンの金利が上昇しているのが懸念点である。
	×	コンビニ (店 長)	販売量の動き	・営業費の上昇により、現在は発注に制限を掛けている。人件費増加のため、業務に当たる従業員数を制限したことで客にも迷惑を掛けてしまっている。以前と同じ経費の使い方では赤字化してしまうため、節約せざるを得ない状況である。店舗の売上は下がっている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	金融業 (融資担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・特定の企業や業種でみられた値上げの動きが、様々な業種に広がっている。
	○	税理士 (所長)	取引先の様子	・例年より暖かい日が続いているためイベントは盛況で、駅周辺の人出も多くにぎわっている。顧問先のなかでも、特に飲食店は業績が良い。
	□	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震による被災から10か月が経過し、生産及び供給に関わる機能は復旧にこぎ着けたものの、受注量が震災前の水準に戻るまでには相当な時間が掛かりそうである。
	□	繊維工業 (総 括)	受注量や販売量 の動き	・生産高は能登半島地震発災前の金額まで回復しているが、本格復旧工事に係る費用負担が重くのし掛かっている。
	□	プラスチック製 品製造業 (広 報)	受注量や販売量 の動き	・販売量の動きから変わらないとみている。
	□	電気機械器具製 造業 (営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・民生品と産業機器向け製品に関しては、一向に受注が伸びていない。一部の限定された製品のみ販売が増加しているが、他の製品の販売減少を考慮すると、受注は全般的に横ばいから減少傾向をたどるとみている。車載関連製品のみ受注が横ばいから少し上向いている。
	□	建設業 (経営 者)	それ以外	・市内の飲食店街の客は増えていない。
	□	通信業 (営業)	受注量や販売量 の動き	・購入物商材の受注量は3か月前と変わらず引き続き好調である。一方でレンタル物商材の受注量は伸び悩んでおり、一括購入による設備投資が多くなっている。
	□	不動産業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・同業者からは、なかなか上向きのお話を聞くことができない。
	□	司法書士	取引先の様子	・相続登記義務化の影響で、相続不動産の処分が進んでいるが、有効活用される場合よりも建物を取り壊して土地を引き受けてもらう場合の方が多い。また、相続しても負の不動産となるため、国庫帰属の相談も多い。
	▲	建設業 (役員)	それ以外	・現状は受注量自体よりも、対応できる人員が不足していることの方が問題としては大きく、先行きに不安がある。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・求職者数の減少が続いているなか、就職を急がずに求人条件をじっくりと見極める人が増えている。
	□	新聞社 [求人広 告] (営業)	周辺企業の様子	・人手不足の傾向は相変わらず強いが、好況のためではなく、採用側と求職側のミスマッチが原因と考えている。満足のいく収入を得られる仕事の求人数は少ない。

□	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求職者数、求人倍率等に大きな変化はみられないが、有効求人数は前月比で約2%増加している。一部の企業に新店舗、新工場等への設備投資を行う動きが見られるが、為替が円安傾向のため求人募集を控える企業もある。</li> </ul>
□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来春卒業予定の学生向け合同説明会では、企業の出展枠に対し5倍以上の応募があったが、学生の参加は出展企業数の半分強であった。このように人手不足の状態で、不人気の業界、特に中小企業は常に人員を募集しているものの、人が集まらない状況である。</li> </ul>
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業績が良くないという理由で求人进行を控える事業所が出てきている。</li> </ul>
×	—	—	—